

焼香・礼拝のしかた

お焼香の作法

お焼香の仕方は宗派などによって違いがありますが、基本的には以下の流れで行います。



遺族に一礼して焼香台のある仏前に進みます。
ご本尊と遺影を仰ぎ頭を下げ、黙礼します。



右手で香をつまみます。



額のところまで押しいただきます。
(浄土真宗では押しいただきません)



香炉に静かにくべます。
これを宗派で決められた回数行うのですが、
二回目からは額でおいただく必要はありません。
※会葬者が多い場合、焼香は一回だけ行うこと
が、宗派問わず慣例化しているようです。



合掌礼拝します。
最後に遺族に一礼し、退きます。

お焼香の意味

仏教では、お葬式をはじめ、さまざまな法要の折に必ずお焼香をします。これにはお仏前を荘厳することによって敬虔な心をささげるという意味があります。香は人の気持ちを快くするものですが、それと同時に芳香によって身心を清めるといった意味もあります。香は仏教だけでなくキリスト教(カトリック)の葬儀でも、前夜式などで用いられているようです。

普通、近親者の焼香は葬儀式の時間内に行われ、一般会葬者の焼香は告別式開始と同時に始められます。